

## 審査の結果の要旨

氏名 松村 武史

本研究は、急性呼吸器感染症の診断法として核酸増幅法である LAMP 法の有用性を検討するために、インフルエンザ様症状をきたした患者鼻腔ぬぐい液から LAMP 法を用いてインフルエンザウイルス、RS ウイルス、メタニューモウイルスの検出を試み、日常診療で用いられている IC 法と結果を比較し、さらに、RNA 抽出を省略した LAMP 法による検出も試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 急性呼吸器感染症症状を有する患者の鼻腔ぬぐい液から LAMP 法を用いて、インフルエンザウイルスおよび RS ウイルスを検出することができた。
2. インフルエンザウイルス A / B の検出において LAMP 法は、現在臨床で用いられている IC 法より感度が高く、より発症早期から診断できる可能性がある。しかし、臨床検体では実験室株での感度を実現できていないと考えられた例も 1 例あったことから、さらに臨床検体での精度を検討する必要も考えられた。
3. より簡便で迅速な方法として RNA 抽出を省略した LAMP 法は、通常の LAMP 法と比較して感度はまだ 50% 足らずにとどまっており、さらに感度を上げるための工夫が必要と考えられる。
4. RS ウイルスは一部の検体で検出できたものの、IC 法より統計学的に有意に感度がよいとはいえず、メタニューモウイルスは検出できなかった。

以上、本論文は急性呼吸器感染症の診断として LAMP 法を用いたものであり、インフルエンザウイルスに関して、従来法である IC 法に対して良好な感度と早期診断の可能性を示すことができた。さらに簡便で迅速に行う方法として、核酸抽出過程を省略した RNA 検出に成功した。そのため、本研究はウイルス性呼吸器感染症の診断法の確立とその簡便化に貢献したと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。